

## **神を恐れる教会**

使徒の働き 5章 1-11 節

### **はじめに**

先々週から四週にわたって、新約時代にできた最初の教会、「エルサレム教会」から教会のあり方を学んでいます。

エルサレム教会は最初、イエス・キリストの弟子たちを中心とする120名ほどの祈り会から始まりました。そしてペンテコステの時に、ペテロの説教によって三千人の人が救われ、その後も順調に成長していき、男性だけでも五千人（使徒4：4）の教会になりました。男性だけでも五千人ですから、女性や子どもたちも含めれば一万人ぐらいの教会になっていたかもしれません。このようにエルサレム教会は、かなりの勢いで急成長していったのです。

しかし、そのような中でエルサレム教会に一つの問題が起こるのです。それは、今日の聖書箇所にある「アナニヤとサツピラの問題」です。この問題を通して、11節には、「**教会全体と、このことを聞いたすべての人たちに、大きな恐れが生じた**」とあります。

教会にはいつもイエス・キリストが共にいてくださいますけれども、教会は罪を完全には拭えない者たちの共同体なので、どんなに順調に成長しているように見えても、問題は必ず起こってくるものです。そして神様は、その問題を通して教会に悔い改めを求め、さらに成長していく教会へと整えていかれるのです。神様は、問題を通して教会を訓練していかれるのです。

エルサレム教会は、順調に急成長していきました。しかし彼らにも欠けているものがあつたのです。それは、「神を恐れる」ということです。私たちは何もかも順調に事が進んでいくと、高慢になり、「神様を恐れる」ことを忘れてしまいます。自分たちには何でもできると思い込み、次第に心も緩んできて、神様はこれぐらいのことは赦してくれるだろう、これぐらいのことは見逃してくれるだろう、そんな思いから少しずつ神様を第一にするよりも自分を優先にし、神様中心よりも自分中心に物事を考えていくようになります。

そのような中で、エルサレム教会に「アナニヤとサツピラの問題」が起きて、彼らは「神を恐れる」ことを学んだのです。そしてただ単に、救われる人々が加えられる教会ではなく、「神を恐れる教会」となっていたのです。

### **1. アナニヤとサツピラの問題点**

では、「アナニヤとサツピラの問題」とは、どのような問題だったのでしょうか。1-2 節にはこうあります。「**ところが、アナニヤという人は、妻のサツピラとともに土地を売り、妻も承知のうえで、代金の一部を自分のために取っておき、一部だけを持って来て、使徒たちの足もとに置いた**」。

エルサレム教会には、貧しい人たちのために、自分たちの持ち物を売って献金をささげる人たちが何人かいました。アナニヤとサツピラもそのうちの一人です。彼らは土地を売りました。彼らは土地を持っている比較的裕福な夫婦だったようです。そのため彼らは、自分たちの土地を売り、貧しい人たちのために献金をしようとしたのです。しかし、彼らはその献金を通して罪を犯すのです。わざわざ自分たちの土地を売って献金をささげる、それは素晴らしいことのように思います。しかしそれが「**サタンに心を奪われた**」罪となったのです。いったいどういう罪だったのでしょうか。

それは 2 節にあるように、彼らは「代金の一部を自分のために取っておき、一部だけを持って来て、使徒たちの足もとに置いた」のに、彼らは土地を「**この値段で売った**」と嘘を言ったことです。つまり彼らは、土地を売った全額を献金していないのに、全額を献金したと嘘を言ったのです。彼らは、売ったお金の一部を自分たちのものにし、ある部分を献金したのです。それなのに、自分たちは売ったお金全額を献金したと嘘を言ったのです。ここに彼らの罪があったのです。

彼らには、土地を売ったお金を全額献金しなければならない義務はありませんでした。また土地を売る義務もありませんでした。エルサレム教会には、自分の土地を持っている人は売らなければならない、売ったお金は全額献金しなければならないという決まりがあったわけではありませんでした。土地を売ることも、売ったお金を献金することも、全く自由だったのです。4 節にこうある通りです。「**売らないでおけば、あなたのものであり、打売った後でも、あなたの自由になったではないか**」。

アナニヤとサツピラは、土地を売って献金する義務は全くありませんでした。彼らは土地を売っても売らなくても良かったのです。売ったお金を献金してもしなくても良かったのです。売ったお金を一部だけ献金しても何の問題もなかったのです。

しかし彼らの問題は、売ったお金の一部だけを献金したのに、売ったお金の全額を献金したと嘘を言ったことです。彼らの罪は、人に嘘をつき、人を騙そうとしたことです。

なぜ彼らはそのような嘘をついたのでしょうか。それは、人に良いクリスチャンだと思われるためです。自分たちの土地を売って、全額を献金する素晴らしいクリスチャンだと見られるためです。彼らは人の目をごまかし、人に良く見られようとしたのです。

## **2. 神を恐れ、神の御前に生きる**

この「アナニアとサツピラの問題」から教えられることは、いくら人の目をごまかせても、神様の目は決してごまかせないということではないでしょうか。私たちはいくらでも人の目を欺くことはできます。自分を取り繕って、いくらでも良いクリスチャンのように見せることはできます。しかしいくら取り繕っても、神様の目を欺くことはできません。神様を騙すことはできません。神様はすべてを見ておられるからです。

エルサレム教会は、順調に急成長している教会でした。しかしその中には、「アナニアとサツピラ」のように、人の目を欺いて、自分を取り繕っているクリスチャンがいたのです。彼らは、神様の目を気にするよりも、人の目を気にしていました。彼らは、人の目ばかり気にして、神様としっかり結びついていなかったのです。人の目を第一に気にして、神様の目を第一にしていなかったのです。

神を恐れる教会は、神様の目を第一に気にする教会です。それは、ひとりひとりが神様としっかり結びついている教会です。ひとりひとりが神様との関係をしっかりと築いている教会です。

それは言い換えれば、ひとりひとりが神の御前に生きる教会です。すべての判断基準を人間ではなく、神に置く教会です。人がどう思うかよりも、神様がどう思うかをまず第一に考える教会です。

## **おわりに**

神様は私たちのすべてを見ておられます。神様に隠せることなど何もありません。私たちは人を恐れるのではなく、神様を恐れなくてはなりません。いくら人をごまかせても、神様をごまかすことは決してできません。

イエス・キリストは言われました。「**からだを殺しても、たましいを殺せない者たちを恐れてはいけません。むしろ、たましいもからだもゲヘナで滅ぼすことができる方を恐れなさい**」(マタイ 10: 28)。

教会が成長していくためには、この「神への恐れ」がどうしても必要です。神様を恐れず、神様を軽んじる教会は、決して成長していきません。

私たちは教会を人間的な集まりにははいけません。人の評価が第一とされるような教会であってははいけません。私たちひとりひとりがまずしっかりと神様と結びつき、神様との関係を確立し、人がどう思うかではなく、神様がどう思うかを第一に考えていかなければなりません。

人の目を欺いたままの教会生活ではなく、神を恐れる教会生活を送りましょう。